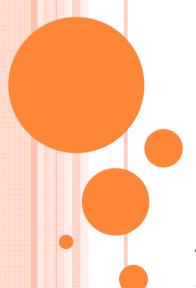
カリキュラム・イノベーションとは何か



# 21世紀型学校カリキュラムの構造



佐藤学

東京大学大学院教育学研究科教授



#### イノベーション

- ○イノベーション(innovation)という用語が、21世紀の経済、経営、技術の標語となっている。
- この言葉のルーツはシュムペーターの経済学(1912年)、1960年代「技術革新」の意味で広範に使われる。 ハーバード大学の経営学のクリステンセンが1990年代に使用。一挙に普及。現代では「企業精神」による部分的革新が、全体のシステムや様式に及ぶ全体的構造的な改革を導くことを意味している。
- ○知識基盤社会による教育環境の激変=大学の企業 化、知識と教育の商品化、知識の情報化、科学技術の 帝国主義化=これらの巨大な動きに、学校教育はどう 対抗しうるのか。(二つのイノベーションの拮抗)。

## 教育におけるイノベーション

- 学校教育のイノベーションは、21世紀において、次の 諸領域で活発化している
- ① ICT教育(information and communication technology education)のイノベーション(特に高等教育、生涯学習、図書館、企業内教育)。情報テクノロジーの発展による学習社会の巨大市場。
- ② 教育コンテンツのイノベーション(大学、学校)=知識の高度化、複合化、流動化
- ② 学术の样士の ( ) 3 ( ) 3 ( )
- ③ 学びの様式のイノベーション
- ④ 学校経営のイノベーション

## ICTのイノベーションの内外の動き

- 文部科学省=2010年4月「学校教育の情報化に関する懇談会」を組織。同年11月「教員支援ワーキンググループ」「情報活用能力ワーキンググループ」「デジタル教科書・教材、情報端末ワーキンググループ」を設置。学識経験者、学校関係者、地方公共団体の長、地方教育行政関係者、民間事業者・団体等が連携。2020年度に向けた教育の情報化に関する総合的な推進方策「教育の情報化ビジョン」を2011年にまとめる。
- ICTイノベーションはアジア諸国(中国、韓国)ラテンアメリカ 諸国において過激に進行。
- ○知識のグローバライゼーション=グーグル図書館=知識のデジタル化(英語帝国主義)+大学の企業化。
- ○「テクノロジー」と「市場」による教育イノベーション(新自由主義)\*対\*公共性の擁護、質と平等の同時追求(社会民主主義=市民的教養教育)

## カリキュラム・イノベーション(1): 教育内容

- 伝統的な教養教育=「普遍性(universality)」「一般性 (generality)」「自律性(autonomy)」=しかし今日、知識の authorship はownership へと移行。(「科学の共和制」と教養教育は解体の危機を迎えている。) 知識の構造も変化。(基礎→応用→探究(開発)という過程=知識の情報への転換→情報の知識への復元という構造)も解体。
- 現代は<生成する知識(emerging knowledge)>と<つながる知識(alligated knowledge)>
- 現代の教養教育=知識の文脈依存性(embedded knowledge, embodied knowledge)、<基礎><応用><開発>の段階の解 体。<高度化><複合化><流動化>
- o 創造性、実践性、越境性、発展性が課題=教科書的知識 (packaged knowledge)の破綻
- プログラム型カリキュラムからプロジェクト型カリキュラム=「階段型」 から「登山型」へ

## カリキュラム・イノベーション(2) 学びの様式

- o 「テクノロジー」と「市場」による ICT ネットワークによる学 びの様式=e-learning
- 学びの再定義=創造的・対話的・反省的実践としての 学び=意味と関係の編み直し
- ○「公共性の再構築」による協同的学び(collaborative learning)の様式=実際の普及は協力的学び (cooperative learning)の様式がなお支配的。

## カリキュラム・イノベーション(3) 学校経営

学校経営のイノベーションの二つの対抗軸

- ① accountability VS. responsibility
- ② PDC cycle(工場モデル) VS. knowledge management (学習組織モデル)

学校経営のイノベーションとしての教育専門家の学びの共同体(professional learning community)としての学校の可能性=<役所>モデルく企業>モデルから<専門家共同体>モデルへ







## アジア諸国の教育イノベーション

- アジア諸国の教育イノベーションは急速。背景にある経済競争とテクノロジーと市場競争。
- ・東アジア型教育(①圧縮された近代化、②社会移動性 (受験競争)③中央集権的効率性④ナショナリズム⑤国 家中心の公共性)の破綻。2000年前後からどの国も 「イノベーション」を遂行。(「新自由主義」対「社会民主 主義」の対立が激化)。「日本モデル」の衰退。
- 疑似進歩主義(quasi-progressivism)の浸透(「創造性」「子ども中心」「批判的思考」「探究中心」「コミュニケーション」etcによる経済的効率性の追求)をどう克服し、学ぶ権利の保障、民主主義、平等と公正、教育の自律性、社会正義の教育を実現するか。

## 先進諸国の21世紀型カリキュラムの改革課題

- ○「量」から「質」へ
- ○「意欲」から「意味」へ

#### カリキュラムの基本課題

- ① 知識基盤社会への対応
- ② 多文化共生社会への対応
- ③ 格差・リスク社会への対応
- ④ 市民性(citizenship)の教育

<言語><探究><アート> <市民性>のバランスあるカリキュラム の追求





## 結論:課題と展望

- ICT教育のイノベーション(市場とテクノロジー)の論理と 知識のイノベーションの論理は皮肉にも逆行している。 (ICTイノベーション=情報への置換、知識のパッケー ジ化、受動的学び、学びの個人主義)
- 学校教育の潜在的可能性の見直しが必要=学びの協同性、学びの共同体、文脈化され構造化された知識の学び、質と平等etc. 「科学の共和制」「教育の共和制」
- すべての子どもの学ぶ権利の保障、学びの「質」の保障、平等の実現(教育デバイドの克服)。
- 耐カリキュラム性(curriculum proof teacher)のある 教師(thoughtful teacher, learning profession) の育成とその支援体制づくりが重要。